

# 地 域 再 生 計 画

## 1 地域再生計画の名称

海・山・川の地域資源を活用した観光交流のまちづくり

## 2 地域再生計画の作成主体の名称

佐賀県、唐津市

## 3 地域再生計画の区域

唐津市の全域

## 4 地域再生計画の目標

唐津市（平成 17 年 1 月 1 日に唐津市・浜玉町・巖木町・相知町・北波多村・肥前町・鎮西町・呼子町の 8 市町村で合併し、さらに平成 18 年 1 月 1 日に七山村が加わり、新唐津市としてスタート）は、東アジア諸国に近い玄界灘に面する佐賀県北部に位置し、東は福岡県、西は長崎県に隣接する。美しく変化に富んだ自然と大陸との交流の歴史を背景に、農林水産業や伝統文化が育ち、多くの観光資源を有する都市として発展してきた。近年は、本市の骨格を形成する福岡都市圏および佐賀都市圏との交流・連携を促進するため、西九州自動車道や佐賀唐津道路の整備が進められているほか、唐津港を再整備し東アジア諸国との交流を強化するなど、西九州の拠点都市としての機能が期待されている。

本市の由来は、魏志倭人伝の「末盧国」の中で「大陸、半島に渡るみなと、（津）」として記述されたことから唐津の地名が生まれたといわれ、古来より大陸との交流が盛んに行われてきた歴史の深い国際交流都市である。背振・天山山系等の緑豊かな山岳部、その山裾から松浦川や玉島川の沖積作用で形成された平野部、さらに上場台地や沿岸部に七つの島が点在するなど豊かな自然に恵まれ、地域固有の生活文化が培われてきた。

本市の基幹産業である農業は、中央部を貫流する松浦川流域と東部に位置する玉島川流域の平野部や、標高 200m内外の丘陵の台地が連なる北西部などで広く営まれており、地域特性を生かした営農は、稲作中心である平坦地の下場地域と畑作中心である丘陵地帯の上場地域とに大別される。気候が比較的温暖であることから、米、麦、ハウスみかん、デコポン、施設野菜（イチゴ、小葱、きゅうり等）を組み合わせた複合経営が盛んに行われているほか、畜産では、上場地域で繁殖仔牛・肥育牛が放牧されており、「佐賀牛」としてのブランド化を目指している。

また、水産業も主要産業の一つであり、市内に 24 の漁港を有し、玄界灘と

いう好漁場に恵まれていることから、タイ、イカ、アジ、サバ等を対象に、底引き網、定置網漁業等が営まれている。また、唐津港は大中型施網漁業によるアジ類、サバ類の水揚げ基地であることから、水産関係企業が集積し、水産加工団地を形成している。水揚げされた新鮮な漁獲物は、そのまま市内の飲食店や宿泊施設等に卸されるほか特産品として水産加工され広く流通し、本市の観光業や小売業を支えていることから、地域経済にとって大きな役割を果たしている。

さらに、本市の総面積の 53%を占める山林については、木材生産を目的とした経済林の育成と共に、災害防止などの国土保全、水源涵養、保健機能さらには二酸化炭素吸収による地球温暖化防止など公益的機能を高めるため、森林整備を目的とした林業を推進している。

観光産業は本市の主要産業であり、観光交流の受け入れ側である市民のおもてなしの心の醸成や地域交通の安全性の確保などを推進し市民協働で取り組んでいくことで地域資源を生かした豊で魅力ある観光産業の振興と自然環境の調和による観光産業の発展によって観光客の増加を図っている。

このような主要産業については、地域に点在し、広域交通網である国県道と市道によって集落が結ばれている。市道については全長約 1,400 km で、広域交通網から観光地へのアクセス道であるとともに、地域住民の生活道路としても利用されている。また、林道については、県道や市道へアクセスし、山間部の広域的ネットワークにより木材の搬出ルート確保や間伐等に利用されている。

しかし、市道は、狭小箇所や袋小路道路、視距の確保が困難な場所や路面の凹凸などにより、観光客のみならず、地域住民の安全な通行にも支障をきたす箇所が多く見られる。

また、林道未整備の地域では、木材価格の低迷のなかで間伐材搬出経費など作業の低コスト化が図れず、間伐整備等の遅れによる森林の公益的機能の低下が課題となっている。

このため、地域再生基盤強化交付金（道整備交付金）を活用した道路整備事業を実施することで、観光施設へのアクセス改善を図り、安心安全な道づくりをおこなうことによる観光客の満度の向上のみならず、周辺農林水産業の販路の確保や地域住民の利便性の向上を図る。また、林道整備による間伐材の利活用を実施することで木材産業の強化や、森林の公益的機能を発揮させることで、本市に多数点在する「海・山・川」の観光資源を有機的に結合させ、交流人口の拡大を図ることによる地域活性化を目指す。

## （目標 1）交流人口の増加

（1）平成 26 年度交流人口目標値 960 万人（平成 20 年度実績 875 万人の

10%増を目指す。)

## (目標 2) アクセス改善、安全性の確保

### (1) 観光地へのアクセス向上

地域資源を活用した観光地へのアクセス向上のため道路拡幅、離合箇所設置、狭小区間の解消を実施し、主要観光施設等へのアクセス時間を短縮(10%減)。

### (2) 道路の安全性確保

潜在的な地域観光施設への観光誘致を実施するうえで、歩行者と車両の導線確保のために必要な歩道整備(歩道設置 3 箇所)や交通網のネットワーク確立のために袋小路道路の解消(袋小路解消 1 箇所)を行う。

### (3) 路面の整備改善

観光客の通行が快適となる路面状況を確立するために、路面の凹凸や亀の子状のひび割れを解消することで安全性と快適性を向上させ、リピーターの確保を図ることで観光客のさらなる増加を目指す(舗装 5km)。

## (目標 3) 林道整備による間伐等森林整備事業の推進

(1) 平成 22 年度から 26 年度までの 5 年間で約 1,900 h a (平成 17 年度から 21 年度までの 5 年間で約 1,480 h a) の間伐等を実施(うち、陣の山線・向野線・塩木線で約 36 h a)

## 5 目標を達成するために行う事業

### 5-1 全体の概要

海・山・川で培われた風光明媚な自然や歴史と伝統に育まれた豊かな文化など魅力ある観光資源を活用した観光唐津のまちづくりによる地域再生を推進するため、地域の重要なインフラである市道・林道の一体的整備を実施する。

平成 20 年度の観光入込客数は約 875 万人(佐賀県観光動態調査)であったが、さらなる観光交流人口の拡大を図るため、西九州自動車道や佐賀唐津道路などの広域交通網を活用した都市間交流や地域間連携を促進する市道・林道の整備により、地域と地域を結ぶ観光ネットワークを構築する。

(1) 唐津市北東部では、玄海国定公園の豊かな自然景観、名護屋城跡地周辺の歴史的史跡、イカを中心とした豊富な水産物、平成 21 年 4 月に開通した本市と長崎県の鷹島とを結ぶ鷹島肥前大橋などにより、更なる観光客の増加が見込まれるほか、新鮮な魚貝類の水揚げや佐賀牛のブランド化を進めている。

しかし、地域ネットワークを構築する道路は、狭小区間や歩道未整備箇所

所、袋小路状道路など多数の課題を有している。このような課題を解決するため、道路整備を推進し、複数の観光スポットがネットワーク化できるよう取り組むことで、更なる観光人口の増加や地域に眠る歴史的文化の発掘につなげる。

- (2) 唐津市南部の天山周辺では、スキー場やキャンプ場、宿泊施設などの天山リゾート構想に沿った施設が点在し観光客の誘致を図っている。

山間部から流れ出た水は厳木川へと注ぎ情緒あふれる風景が見られ、水とのふれあいを深めるため、鮎祭や水車を活用したまちづくりを進めている。また、厳木川は市の中心部で松浦川と交わることで平野部の農業用水に活用されており、農業集積施設へのアクセス改善や、観光拠点への連絡道路の整備、路面状況の改善により、農業基盤を整え効率的な生産に寄与するとともに、道路の利便性が高まることで地域に根付いた観光資源を有効に活用することができる。

- (3) 唐津市東部を流れる玉島川は、古くは万葉集にも記述があるように、古来より清流として郷土に愛されてきた。上流の檜原湿原から、滝や深緑の森が連なり、森林浴や玉島川の鮎、つがにやわさびなど清流に育まれた地域資源が豊富である。下流では、みかん、りんご、ぶどうなどの観光農園も営まれ、家族がふれあう地域づくりが行われている。このような観光スポットを連結させるネットワークを構築するため、道路のアクセス機能の改善、狭小区間の解消、歩道の設置を行い、自然とのふれあいを通した観光交流の拡大を図る。

- (4) 豊かな山や海を守るために必要な森林の公益的機能を保全するため、間伐等による森林機能の回復や森林の適正な管理が求められている。林道整備を推進し路線網を充実することで、木材搬出や森林管理を効率化し林業振興を図る。

## 5-2 法第5章の特別の措置を適用して行う事業

### 道整備交付金を活用する事業

路線については、事業開始に係る手続き等を完了している。

なお、整備箇所等については、別添の整備箇所を示した図面による。

#### ・ 市道

虹の松原宇木線	認定年月日	昭和 35 年 4 月 1 日
宇木東宇木線	認定年月日	昭和 35 年 4 月 1 日
徳武広首線	認定年月日	昭和 35 年 4 月 1 日
屋形石線	認定年月日	昭和 35 年 4 月 1 日
峰門柳瀬線	認定年月日	昭和 56 年 4 月 1 日
水車芹田線	認定年月日	昭和 56 年 4 月 1 日

古瀬線	認定年月日	昭和 56 年 4 月 1 日
天川～杉宇土線	認定年月日	昭和 59 年 3 月 23 日
浪瀬～瀬戸木場線	認定年月日	昭和 59 年 3 月 23 日
下大谷線	認定年月日	平成 22 年 3 月 24 日
馬谷線	認定年月日	平成 10 年 3 月 31 日
大野夕日線	認定年月日	平成 2 年 3 月 30 日
稗田行合野線	認定年月日	昭和 57 年 3 月 31 日
鶴牧入野線	認定年月日	昭和 58 年 4 月 1 日
加倉線	認定年月日	昭和 51 年 3 月 31 日
丸田線	認定年月日	昭和 57 年 6 月 25 日
愛宕団地線	認定年月日	平成 5 年 3 月 29 日
滝川桑原杉山線	認定年月日	昭和 45 年 12 月 25 日
・ 林道		
陣の山線	・ 森林法による「佐賀西部地域森林計画」 (平成 20 年度策定) に掲載済	
向野線	・ 森林法による「佐賀西部地域森林計画」 (平成 20 年度策定) に掲載済	
塩木線	・ 森林法による「佐賀西部地域森林計画」 (平成 20 年度策定) に掲載済	

#### **[施設の種類 (事業区域)、事業主体]**

- ・ 市道 (唐津市) 唐津市
- ・ 林道 (唐津市) 佐賀県、唐津市

#### **[事業期間]**

- ・ 市道 (平成 22 年度～平成 26 年度)
- ・ 林道 (平成 22 年度～平成 26 年度)

#### **[整備量及び事業量]**

〈整備量〉

- ・ 市道 10.60 k m
- ・ 林道 3.92 k m

〈事業費〉

- ・ 総事業費 1,649,030 千円 (うち交付金 824,515 千円)
- (内訳) 市 道 1,059,500 千円 (うち交付金 529,750 千円)
- 林 道 589,530 千円 (うち交付金 294,765 千円)

### **5-3 その他の事業**

#### **5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置による取組み**

該当なし

### 5-3-2 支援措置によらない独自の取組み

地域再生法による特別の措置を活用するほか、以下の事業を総合的かつ一体的に実施する。

(1) 「交流」と「おもてなし」でにぎわい創出事業（事業主体 唐津市）  
海・山・川の特徴ある観光資源を活用した観光交流のまちづくりとして、特別名勝地の虹の松原や特別史跡名護屋城跡の文化財等を活用した観光キャンペーンや観光宿泊客の誘致活動を展開するとともに、「唐津くんち」や郷土伝統芸能などの振興、まちおこしイベントの支援及び農山漁村体験の推進など、市民と協働して交流人口の拡大に取り組む。

(2) 交通安全啓発事業（事業主体 唐津市）

地域が一体となって交通安全の推進に取り組むため、小学校の通学路での街頭交通指導、飲酒運転防止啓発パレード及び保育園や幼稚園への安全指導を実施するなど、子どもたちの安全を守るために必要な措置を講じる。

(3) 唐津市交通バリアフリー事業（事業主体 唐津市）

唐津駅や東唐津駅など、駅周辺部において、ユニバーサルデザインに配慮した歩道整備を推進し、高齢者や障害者に優しい街づくりに努める。

(4) 森林整備促進事業（事業主体 唐津市）

森林組合等が行う除間伐施業経費の助成など、森林所有者や林業従事者への支援事業を行うとともに、森林整備を促進し、森林の適正管理と公益的機能の向上を図る。

(5) 農山漁村地域力向上対策事業（事業主体 唐津市）

農山漁村地域での生産力向上や地産地消を推進するため、生産基盤の整備、直売所への支援及び消費拡大キャンペーンなどに積極的に取り組み、農山漁村地域の振興を図る。

## 6 計画期間

平成 22 年度～平成 26 年度

## 7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

地域再生計画の目標については、計画終了後に佐賀県観光動態調査などを活用して観光客の推移を確認し、唐津市関係部局を中心とした「地域再生計

画評価会議」で目標の達成状況等の検証・評価を行うとともに、その後の施策への反映につなげる。

なお、評価結果については、唐津市のホームページ等で公表する。

## **8 地域再生計画の実施に関し地方公共団体が必要と認める事項**

特になし